

ワークショップ 13

「消化管粘膜下腫瘍に対する診断と治療の新展開」

司会 加藤 広行（桐生厚生総合病院外科）

入澤 篤志（獨協医科大学医学部内科学（消化器）講座）

後藤 昌弘（大阪医科大学附属病院第2内科）

消化管粘膜下腫瘍様病変の診断には超音波内視鏡（EUS）が有用であり、腫瘍性病変が疑われる場合は EUS-FNA が広く施行されているが、小さな病変に対する生検法は確立されていない。GIST であれば外科的治療が第一選択となるが、近年では内視鏡的胃全層/筋層切除など、新たな試みも報告されている。小さな NET に対しても内視鏡的切除が行われているが、十分なエビデンスはない。一方、転移を有する場合は予後不良であり、種々の新規薬剤の開発により治療成績は向上しつつあるが、これらの疾患に対する集学的治療は未だ確立しておらず、今後さらなる治療成績の向上が望まれる。このセッションでは、消化管粘膜下腫瘍様病変に対する、診断・治療を幅広く討議したい。